

本籍地

部隊名

官等氏名

死亡年月日

死亡場所

死亡区分

死亡理由

右現認ス

現認証

30 Feb

軍手帳

20.7.9

ルソノ島

戦死

本籍地

部隊名

官等氏名

飛行第66戦隊

99-11

戰時死亡者現認證書

| | | | |
|--------------|--|------------------|--|
| 隊部一三五一威 (通) | | 所属部隊 | |
| 廠空航軍陸羅馬 (固) | | 死 | |
| 日九月七、〇二昭 | | 時日月年 | |
| ニソル部北 | | 場所 | |
| 方北東峠テレハ | | 分區 | |
| テ於ニ中山 | | 事由 | |
| 死 敵 一 形 | | 遺骨 (返留) | |
| 強度 傷 通 依 戰 友 | | 役種 | |
| ハ 傷 通 依 戰 友 | | 官等級 | |
| ハ 傷 通 依 戰 友 | | 前七死 (明年令死) | |
| ハ 傷 通 依 戰 友 | | 後七死 | |
| ハ 傷 通 依 戰 友 | | 氏名 | |
| ハ 傷 通 依 戰 友 | | 生年月日 | |
| ハ 傷 通 依 戰 友 | | 本籍地 | |
| ハ 傷 通 依 戰 友 | | 留守担当者現住所 (續柄) 氏名 | |

右現認す

昭和二十二年二月二十一日

現住所
所属部隊

官軍親 氏名 陸軍曹長

上陸地名 佐世保

上陸地支局に於て送還済や否や

未連絡

昭和三十二年十月二十日

調製上の注意

一、所属部隊は通称固有部隊名を判別程度に記入のこと
 二、死亡欄は出未得限り詳細に特に事由傷病名死因(受傷)入院年月日入院病院名及其他参考資料等併記すること
 三、戦時死亡者現認書は戦時死亡者現認書に併記すること

現認證明書

大友 派遣 成 第九八部隊 [redacted] 隊 [redacted] 隊

陸軍上等兵

右 昭和二十年七月九日 [redacted] マラバ [redacted] 於テ

爆裏ニ依リ戦死(戦時死) [redacted] 現認マ

昭和二十二年三月十九日

現認者元 成 第九八部隊 [redacted] 隊 陸軍 階級 [redacted]

現住所

氏名

[redacted]
[redacted]

現認證

所屬團有名
部隊通稱號
成一五三〇
不明
兵

本籍地
留守現住所
實兌
不明
兵

死者姓名
入營應召年月日
內地港灣出月日
外北港灣到月日
主事作戰名及
時期
時胸紋

階級進級
年月日
入營應召
其
他

死
世認定
其
他

死
死七時
死七時
死七時

死
死
死
死

死
死
死
死

死
死
死
死

死
死
死
死

死
死
死
死

死
死
死
死

死
死
死
死

19-12

1407

死亡理由

傷病

戦死

死亡前之状態

命令書 功績名簿焼捨す、本人不明

死亡認定理由

目認 死体埋葬 他人ヨリ聴ク 其 他 (状況ニヨリ 死体埋葬セズ)

右之通り認定ス

所屬部隊 四航軍司令部

現住所

官等氏名印 陸軍部長

備考

判明セル所成ルベク詳シク記載セラレ度ク

死亡認定ノ理由ニハ其ノ確度(例ハ八冊初十九年十月二日)ヨリ示サレ度ク

早 確定ナルモノ 乙 記憶ウス干モノ 丙 他人ヨリ干クモノ



現認證明書

本籍地

現住所

所属部隊 中四航空軍独立才七機隊

官名 陸軍一等兵(死之前)

死之場所 中四航空軍

死亡区 勿 初死

死亡日時 昭和二十年二月十日十七時

死亡傷病名 トラリヤ及胃病

留守擔當者住所 現住所ニ同ジ

續柄氏名 専

右證明す

昭和三十年 月 日 現認證明書



戦死認定書

昭和二十年徴集予備役、重砲兵、陸軍上等兵

右、昭和二十年七月上旬比島ラグナ州にてゲリラと交戦中

戦死せるものと認定す

原籍地

留守担当者

妻

昭和二十三年二月二十五日

元海上輸送第八大隊通信班残務処理者

本館蔵
昭和二十五年五月十五日
言氏名 陸軍少佐 藤田 隆
上原兵

一 役種 兵種 年次 國 歩 昭二

一 死亡年月日 將 昭和二十五年七月十日 午前十一時

一 死亡場所 此島北岸 區立 附野山南

一 死亡区分 戦死

一 死亡事由 此島北岸 區立 附野山南 戦死 其後 屍体 政府

一 遺骨の有無 有

一 遺灰因何所發掘 此島北岸 區立 附野山南

右相違 昭和二十五年五月十五日

昭和二十五年五月十五日 昭和二十五年五月十五日

若原本と相違無きことと證明 民生部世話課長

25-10

現認證明書

不籍地
所属部隊 独立歩兵第一七三大隊
(通稱番号) 第一〇六三四

徵集年

官等級氏名 陸軍上等兵

(進級年月日)

年 月 日

死亡年月日 昭和二十年七月十七日

死亡場所 此島不知火島太郎山

死亡区分(傷病等) 戦死

死亡状況(死因) 友軍の十数隻の潜水艦が太郎山に集結せしむる途に敵の潜水艦に遭遇し、埋没中参考) 七月十七日

右正 現認 昭和二十二年 月 日

現認者所属部隊(通稱番号) 独立歩兵第一七三大隊

現住所

旧職官等級氏名(印)

旧職官等級氏名(印)

現認證明書

地方世話部

| | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|-----------|----|--------|-------|-----------|--------|------|---------|---|------|--------------|---------|-----------|
| 昭和 22 年 1 月 30 日 | 右現認證明致します | | 死者との関係 | 死亡時状況 | 死亡者 | 死亡年月日時 | 死亡區分 | 留守宅住所氏名 | 死亡事由 | 死亡場所 | 氏名 | 本籍地 | 所属部隊 |
| | 昭 和 | 22 | 年 | 1 | 月 | 30 | 日 | 同ジ分隊員ナリ | 此島カ島ルカ高地西南方陣地ハ極メテ不健康ニシテ屋間尚暗キ物産キジヤムル谷ナリ糧秣ニ極メテ少ク加之日光ヲ見ガル所ナル兵ハ大部分マラリヤトノ洲永虫等ニ罹リテ不辛ニ上記ノ病ニカカリ終ニ七月十日ノ病死セタル | 軍醫病死 | 比島カ島ルカ高地西南高地 | 同ジ分隊員ナリ | 依立混成五十四旅團 |
| 現認者 | | | 本籍 | 現住所 | 所属部隊 | 官等氏名 | 役職 | 兵種 | 階級 | 前階級 | 後階級 | 死亡階級 | 死亡階級 |
| 現認者 | | | 同 | 同 | 依立混成五十四旅團 | 陸軍上士兵 | 補 | 歩兵 | ト | ト | ト | ト | ト |

大川納

36-10

1414

昭和二十一年六月廿七日

| | | | |
|--|----|------------|--------------------|
| 本籍地 | | [Redacted] | |
| 所属部隊固有名称 | | 第211部队 | |
| 通称 | | 第211部队 | |
| 役集年 (任官年) | 従種 | 兵種 | 死亡前官等級 (同發令年月日) |
| 比 | 現 | 山 | 兵 |
| 留守住所 | | [Redacted] | |
| 擔當者 | | 遺稱氏名 | |
| 死亡年月日時 | | 死亡區分 | |
| 死亡事由 | | 死亡場所 | |
| 死亡後略の要否 | | 遺留品 | |
| <p>死亡状況</p> <p>右の通り相違なきことを証明する</p> <p>昭和二十一年六月廿七日</p> <p>本籍地 [Redacted]</p> <p>現住所 [Redacted]</p> <p>元所属部隊 第211部队</p> <p>階級氏名 陸軍上等兵 [Redacted]</p> | | | |

44-11

戦歿者確認(證明)書

一、死歿者所属部隊名(通稱) 成 四三〇七部隊 (七八号機)

一、徵集年月 昭和二十一年 兵種 衛生兵

一、官位(死後) 兵長 (死後)

一、氏名 [Redacted] 年 月 日生

一、死歿場所 比叻 東方大日の附近

一、死亡区分 山 爆撃隊 隊員 戦死

一、死歿年月日時 昭和二十一年七月十日 日 時

一、死歿者本籍地留守担当者 [Redacted]

右確認(證明)ス

昭和二十一年三月六日 元所属部隊名 成 四三〇七部隊

現住所 [Redacted]

元官位 兵長

氏名 印 [Redacted]

註、死亡事由、場所ハナラズシテニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニナラズ者ハソノ前後ヲ

宛 先

地方世話部慰恤係

戦歿者確認(證明)書

一、死歿者所属部隊名(通稱) 威来(只念)光部隊

二、戦災年(昭和) 昭和 役種 補九兵 兵種 輜重兵

三、官位(死歿前) 上等兵 (死後遺)

一、氏名 [Redacted]

一、死歿場所 北野(只念)光部隊

二、死亡區分並ニ事由 戦病死

一、死歿年月日時 昭和 年 月 日

一、死歿者本籍地留守担当者 [Redacted]

右確認(證明)ス

昭和 年 七月 二十五 日

元所属部隊名 威来(只念)光部隊

現住所 [Redacted]

元官等級 上等兵

氏名 印 [Redacted]

註、死亡事由、場所ハナハベクワシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニナラタ者ハソノ前後ヲ
ワシク知ラセ下サイ。

宛先 [Redacted]

地方止話部 七話部

死亡現認證明書

所屬部隊名

南方第十四野戦自動車隊

官等職氏名

陸軍兵技上等兵

氏名

昭和貳拾年七月拾日

昭和貳拾年七月拾日

戦死

戦死

比島

比島「キヤングキヤング」

昭和貳拾年七月拾日

昭和貳拾年七月拾日五時頃「キヤングキヤング」附近

ニ於テ戦中胸部貫通傷ヲ受テ戦死ス

元南方

元南方第百自動車隊

元陸軍

元陸軍兵技長

隊

75-10

寫

昭和二十二年 一月 第 () 號

死亡者調査表

昭和二十二年

地方 世帯 部 製

| 整理番號 | 所屬部隊 | 年集 | 本籍 | 留守 | 死亡年月日時 | 死亡原因 | 遺留品 | 未歸還屆 |
|------|------|----|----|-----|------------|--------|--------|------|
| 8 | 陸軍 補 | 兵 | 右 | 現住所 | 昭和二十二年一月十日 | 死亡由傷病名 | 遺留品の状況 | 有 |
| | | | | | | | | の第 |
| | | | | | | | | の第 |
| | | | | | | | | の第 |

○本表中捺印の欄以外は世帯部にて記入すること
 ○記載上の注意並に履歴欄は裏面にあり(記載上の注意をよく読んでから記入の事)

59-10

陸 軍

拝啓

我々の後貴部員同様には復員業務終りの為に日往由縁
忙の多し拝察いたし洵に御苦勞様存じ申す

初川先生は八月十六日復員せし是れ此等派遺為牛師団

（鉄兵衛） 経理部員 [redacted] 主任 [redacted] 心御慰いませ

掃蕩時兵に戦病死者の遺骸を携行しなすは遺後の

佐所の確認を得せし急次作出来たりし所は遺後

是の連絡も此遺骸日既にしてより直接遺後にて作

しなすはたし取而申すは、年人戦病死者時既に

戦中最中、の多し、此間在華防衛軍部員に日往由縁

遺後にも今送何等の通報も、しありませぬ故に書き此へ

正式の通報もしし申處理方申願ふは致しませ

従へし遺後に対する恩典関係も一切處置が事なり
存りませぬ故に縮小の貴部員に於て悲し可く處置

10-12

陸軍

方由叔汁願いませり

尚年人の異一在の如リ

年籍

現住所

言石 於陸軍部事務

遺族 父

昭和二十三年三月末迄各方面軍より美下柳岡經理部にて陸軍

部職于三月十日於世都ルソ山中にて戦病死

陸軍部作戦部にて八月六日未開係書類一切携行

此の如き詳細不明

十月三日

昭和二十三年

10-13

敬 謹 啟

謝 表

昭 和 十 五 年 十 月 廿 日 御 寄 書 奉 覽 三 股 御 入 形
 昭 和 十 五 年 十 月 廿 日 御 寄 書 奉 覽 一
 昭 和 十 五 年 十 月 廿 日 御 寄 書 奉 覽 三 股 御 入 形
 昭 和 十 五 年 十 月 廿 日 御 寄 書 奉 覽 一
 昭 和 十 五 年 十 月 廿 日 御 寄 書 奉 覽 三 股 御 入 形
 昭 和 十 五 年 十 月 廿 日 御 寄 書 奉 覽 一

昭 和 十 五 年 十 月 廿 日 御 寄 書 奉 覽 三 股 御 入 形
 昭 和 十 五 年 十 月 廿 日 御 寄 書 奉 覽 一
 昭 和 十 五 年 十 月 廿 日 御 寄 書 奉 覽 三 股 御 入 形
 昭 和 十 五 年 十 月 廿 日 御 寄 書 奉 覽 一

大 皇 后 御 寄 書 奉 覽 三 股 御 入 形
 大 皇 后 御 寄 書 奉 覽 一

昭 和 十 五 年 十 月 廿 日

記明書

本籍

[Redacted]

陸軍憲兵

[Redacted]

[Redacted] 生

右者昭和十九年十月十日比島派遣一〇六二
部隊(貨物廠)三應召勤務中昭和二十年七月
十日比島六号木市西方二〇号地奥ニ
於テ戦死ス

右通ニ相違ナキコトヲ記明ス

昭和二十年十月十九日

戦友

[Redacted]

現認証

本籍地

部隊名

官等氏名

軍属

30戦機司令部

死亡年月日

昭和五年七月十三日

死亡場所

ルソン島

死亡区分

戦死

死亡理由

右現認証

本籍地

部隊名

官等氏名

飛行二〇〇隊

101-11